

て、薩隅日の三州は、大方民間にも此土瓶を用ゆ、猶大坂までもとり來りて、薩摩焼と稱して重寶とす、薩摩にてはノシロコ焼のチヨカといふ、チヨカとは茶家の心にて土瓶の事なり、薩摩の方言なり、土瓶といひては知るものなし。

〔天保十三年物價書上〕瀬戸物引下グ直段書上

尾州瀬戸燒
一 壹升入土瓶 壹ツニ付 當時引下グ直段百五拾貳文

但五合入三合入等、右ニ准じ直段引下申候。○中

京都燒
一 壹升入土瓶 壹ツニ付 當時引下グ直段百七拾貳文

但八合入を五合入迄、右ニ准じ直段引下グ申候。

相馬燒
一 青地壹升入土瓶 壹ツニ付 當時引下グ直段百八文

但五合入、右に准じ直段引下グ申候。○中

右瀬戸物類は數口有之、當用之分取調候處、前書之通、直段引下グ申候、依之此段申上候、以上、

寅 八月廿一日

諸色掛り
佐内町

名主 八右衛門 外一

〔守貞漫稿十八雜服附雜事〕嘉永二年卯行、古風ト流布トヲ、相撲番附ニ擬スル、其流布ノ方大關以下左

ノ如シ。○中 道八ノ土瓶、陶工名

〔茶道筌蹄五〕湯次

黒塗湯の子スクヒとも利休形なり、又金の湯の子スクヒあり、金の湯次に添ふと同じからず、網の繪は朱の湯の子スクヒなり。

同唐金

金杓子添ふ、利休形、元サハリ寫しにて、禪家に銅提といひて酒次なり。